



令和2年度 No. 2

# 駒岡小学校だより

5月号

## もう少しがんばりましょう

校長 中山 正之

日に日に暖かさが増しています。季節はすっかり春になりました。本当なら気持ちの良いこの季節を、誰もが楽しむことができているはずですが、新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐために、未だ苦しい日々が続いています。すでに報道されているように、学校の臨時休業が5月31日まで延長されました。私達は自分自身と周りの人々の健康を守るために、もう少し辛抱をしなければなりません。制約の多い状況ですが、学校は長期間ご家庭で過ごす子ども達に対してできることを、これからも考え続けていきたいと思えます。今後も学習や心身の健康について、お知らせしたいこと、取り組んでいただきたいことを、可能な限り早く、確実にお伝えしていきます。ご協力をいただくことも多くなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、3月以来子ども達は多くの時間をご家庭で過ごしています。学習に取り組んだり軽い運動をしたりと、様々な工夫をしていることと思えます。私は子ども達にこの時間を利用して、ぜひたくさん本を読んでもらいたいと思っています。書店や図書館に出かけることが難しい状況ですが、ご家庭にある本を手にとったり、インターネットで電子書籍を利用したりと、できることはあると思えます。子ども達が自宅で読書ができるように、児童生徒向けの電子書籍を無料で提供している出版社のサイトもいくつかあります。ぜひ利用してほしいものです。また、読書のほかにも、家事のお手伝いをできるだけ多く経験させたり、植物を育てさせたりなど、家で過ごす子ども達の心を豊かにできる工夫は様々あります。保護者の皆様にとっても苦しい時期だと推察いたしますが、ご家族で協力し、乗り越えていただきたいと思えます。

この3月の修了式に、「前を向いていきましょう」という気持ちを伝えるために、ある本の一節を読もうと思っていました。その時にできなかったのも、ここで紹介します。それは横浜出身の作家である大佛次郎（おさらぎ じろう）の『スイッチョねこ』という童話です。子猫が主人公の微笑ましいお話なのですが、終わりの方にとっても印象的な一節があります。

「ほんとうに、まもなく ふゆが くることでしょう。この なつ うまれたばかりの こねこたちは、まだ ふゆに あったことがなく、しもや ゆきも しらないのです。しかし、じょうぶでいきていけば、この よのなかが どんなきも たのしいし、よいものだと していましたから、あさ おきるのを たのしみに、ぐっすりと、よく ねむるのです。いつも めを さますと、きのうと ちがう あたらしい あさが きています。」（『スイッチョねこ』大佛次郎 1975年フレーベル館）

つらい時期はまだ続きますが、いずれ終わりが来ることを信じたいと思えます。そして以前の生活が一日も早く戻ってくることを願い、努力を続けていきたいものです。

